

医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。

## 「使用上の注意」改訂のお知らせ

2021年1月

製造販売元 大興製薬株式会社

販売元 本草製薬株式会社

勃起不全治療剤

シルденаフィルクエン酸塩錠

# シルденаフィルクエン酸塩錠 25mgVI「DK」 シルденаフィルクエン酸塩錠 50mgVI「DK」

謹啓 時下益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、標記製品に関しまして「使用上の注意」を改訂致しますのでご案内申し上げます。

今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

謹白

記

1.改訂内容[削除箇所:.....部]

改訂後	改訂前																		
<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p><b>3.相互作用</b> 本剤は主にチトクロームP450(CYP)3A4によって代謝されるが、CYP2C9もわずかではあるが関与している。</p> <p>(1) 省略</p> <p>(2)併用注意(併用に注意すること)</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>チトクロームP450 3A4阻害薬(リトナビル、ダルナビル、エリスロマイシン、シメチジン、ケトコナゾール、イトラコナゾール等)</td><td>リトナビル、エリスロマイシン、シメチジンとの併用により、シルденаフィルクエン酸塩製剤の血漿中濃度が上昇し、最高血漿中濃度(Cmax)がそれぞれ3.9倍、2.6倍、1.5倍に増加し、血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)がそれぞれ10.5倍、2.8倍、1.6倍に増加した。〔「1.慎重投与」の項参照〕</td><td>代謝酵素阻害薬によるクリアランスの減少</td></tr><tr><td>省略</td><td>省略</td><td>省略</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	チトクロームP450 3A4阻害薬(リトナビル、ダルナビル、エリスロマイシン、シメチジン、ケトコナゾール、イトラコナゾール等)	リトナビル、エリスロマイシン、シメチジンとの併用により、シルденаフィルクエン酸塩製剤の血漿中濃度が上昇し、最高血漿中濃度(Cmax)がそれぞれ3.9倍、2.6倍、1.5倍に増加し、血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)がそれぞれ10.5倍、2.8倍、1.6倍に増加した。〔「1.慎重投与」の項参照〕	代謝酵素阻害薬によるクリアランスの減少	省略	省略	省略	<p style="text-align: center;"><b>【使用上の注意】</b></p> <p><b>3.相互作用</b> 本剤は主にチトクロームP450(CYP)3A4によって代謝されるが、CYP2C9もわずかではあるが関与している。</p> <p>(1) 省略</p> <p>(2)併用注意(併用に注意すること)</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>チトクロームP450 3A4阻害薬(リトナビル、サキナビル、ダルナビル、エリスロマイシン、シメチジン、ケトコナゾール、イトラコナゾール等)</td><td>リトナビル、サキナビル、エリスロマイシン、シメチジンとの併用により、シルденаフィルクエン酸塩製剤の血漿中濃度が上昇し、最高血漿中濃度(Cmax)がそれぞれ3.9倍、2.4倍、2.6倍、1.5倍に増加し、血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)がそれぞれ10.5倍、3.1倍、2.8倍、1.6倍に増加した。〔「1.慎重投与」の項参照〕</td><td>代謝酵素阻害薬によるクリアランスの減少</td></tr><tr><td>省略</td><td>省略</td><td>省略</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	チトクロームP450 3A4阻害薬(リトナビル、サキナビル、ダルナビル、エリスロマイシン、シメチジン、ケトコナゾール、イトラコナゾール等)	リトナビル、サキナビル、エリスロマイシン、シメチジンとの併用により、シルденаフィルクエン酸塩製剤の血漿中濃度が上昇し、最高血漿中濃度(Cmax)がそれぞれ3.9倍、2.4倍、2.6倍、1.5倍に増加し、血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)がそれぞれ10.5倍、3.1倍、2.8倍、1.6倍に増加した。〔「1.慎重投与」の項参照〕	代謝酵素阻害薬によるクリアランスの減少	省略	省略	省略
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
チトクロームP450 3A4阻害薬(リトナビル、ダルナビル、エリスロマイシン、シメチジン、ケトコナゾール、イトラコナゾール等)	リトナビル、エリスロマイシン、シメチジンとの併用により、シルденаフィルクエン酸塩製剤の血漿中濃度が上昇し、最高血漿中濃度(Cmax)がそれぞれ3.9倍、2.6倍、1.5倍に増加し、血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)がそれぞれ10.5倍、2.8倍、1.6倍に増加した。〔「1.慎重投与」の項参照〕	代謝酵素阻害薬によるクリアランスの減少																	
省略	省略	省略																	
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
チトクロームP450 3A4阻害薬(リトナビル、サキナビル、ダルナビル、エリスロマイシン、シメチジン、ケトコナゾール、イトラコナゾール等)	リトナビル、サキナビル、エリスロマイシン、シメチジンとの併用により、シルденаフィルクエン酸塩製剤の血漿中濃度が上昇し、最高血漿中濃度(Cmax)がそれぞれ3.9倍、2.4倍、2.6倍、1.5倍に増加し、血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)がそれぞれ10.5倍、3.1倍、2.8倍、1.6倍に増加した。〔「1.慎重投与」の項参照〕	代謝酵素阻害薬によるクリアランスの減少																	
省略	省略	省略																	

2. 改訂理由：

自主改訂により「相互作用」の項を改訂いたしました。

3. 本情報はDSU(医薬品安全対策情報)No. 296(2021年2月中旬発送予定)に掲載されます。

4. 添付文書情報は「医薬品医療機器総合機構ホームページ

(URL:<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)」においてもご確認いただけます。

以上